

# 出張報告

報告日 令和3年12月6日

会派名	柏崎の風
報告者氏名	阿部 基、星野 正仁、春川 敏浩、柄沢 均、山本 博文、 白川 正志、田邊 優香、近藤 由香里
種別	■調査研究（■行政視察） □研修会 □要請・陳情 □各種会議
用務	リサイクル燃料貯蔵 株式会社 および むつ市議会 視察
日時	令和3年11月25日（木） 10:30～11:30 13:20～16:30
場所 （会場）	青森県むつ市
調査項目等	原子力サイクル施設の現状と原子力関連施設立地地域との意見交換について
概要	<p>○リサイクル燃料貯蔵 株式会社 施設視察 （説明者 立地広報グループ・<span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span> 氏）</p> <p>○むつ市議会 意見交換 （議長 大瀧 次男 氏、副議長 佐々木 孝徳 氏、 議員 富岡 幸夫 氏、議員 山本 留義 氏、議員 佐々木 肇 氏、 議員 白井 二郎 氏、オブザーバー議員 8名） （財務部長、企画政策部長、財務課長、 エネルギー戦略課長）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・使用済燃料中間貯蔵施設</li><li>・使用済燃料税</li></ul>
所感等	<p>【阿部 基】</p> <p>・使用済燃料課題解決のため、リサイクル燃料備蓄センターを視察しました。 2013年には貯蔵建屋（1棟目、3,000t貯蔵）が完成しており、柏崎刈羽原子力発電所からの使用済燃料受け入れ可能な状況であることを確認できました。また、受け入れ自治体である、むつ市議会議長や議員と意見交換をさせていただき、使用済燃料の考え方や今後の取り組み方について、共有する必要があるため、今後も調査研究を進めてまいります。</p> <p>【星野 正仁】</p> <p>・リサイクル燃料備蓄センター施設：現在の状況と施設の概要今後の取り組みについて詳細な説明を聞きました。柏崎刈羽原子力発電所の再稼働については、大切な施</p>



設です。併せて再処理工場もセットであると考えます。現在は、新規制基準への対応工事、完了後の検査を経て運用方針と進む計画を確認しました。基準工事を完了し早期の事業開始を望むところです。

- ・むつ市議会との意見交換：むつ市議会の現在の取り組み状況、経過、課題について柏崎市の取り組みと合わせて意見交換しました。特に使用済み核燃料税の累進課税の考え方、進め方、課題等についてとても有意義な意見交換が出来ました。大きな課題は、事業開始がいつになるのか、先の見えない現状です、柏崎市でも現在同様な状況と思います。今回はとても良い意見交換でしたが、今後もむつ市議会と継続的に意見交換して情報共有していきたいと思います。

#### 【春川 敏浩】

- ・2013年に施設の1棟目が完成したが各種の申請には6年間を要し2020年11月にリサイクル燃料備蓄センターとしての使用済核燃料貯蔵事業変更許可が下りたが、現在では新基準による適合審査が待たれる状態である。この施設も津波対策には万全を期していることが確認できた。
- ・むつ市議会においては、全国原子力発電所立地議会サミットに加入するということが非常に熱心に質疑応答がありました。中間貯蔵は最長50年の期間を設けて2棟の建設が予定されている。果たして中間貯蔵なのか事業者との協議の結論が見えないことが懸念されていた。使用済核燃料税に対する新税調査検討特別委員会を設置し検討中なので、本市の事例を紹介しながら有意義な意見交換であった。

#### 【柄沢 均】

- ・リサイクル燃料備蓄センターでは新規制基準による事業変更許可が取得され設工認の審査対応に取り組んでいるが、事業開始の目標時期が示されていない。むつ市議会ではむつ市使用済核燃料税条例が可決され、事業開始時期の明確な見通しについて事業者と協議を続けている状況である。使用済核燃料の中間貯蔵は原子力発電所の再稼働、そして使用済燃料再処理工場の稼働と密接な関係がある。今後もむつ市議会とは意見交換を続け、情報を共有していきたい。

#### 【山本 博文】

- ・むつ市のリサイクル燃料備蓄センターを視察させていただきました。使用済み燃料の中間貯蔵施設としてむつ市が誘致した経緯があり、現在規制庁への設計及び工事計画の変更認可申請中であり、事業開始まで時間がかかっている。特に使用済み燃料を金属キャスクに入れてこの施設で最長50年貯蔵し県外の最終処分場へ搬出するルールになっている。柏崎刈羽原発からも1基持ってくる予定を現場で確認できた。
- ・むつ市役所にてむつ市議会との意見交換を行った。テーマについては「使用済核燃料中間貯蔵施設」と「使用済核燃料税」で行われた。むつ市議会では、事業開始時期が見通せず困っているので規制庁に柏崎市議会と一緒に陳情に行きたいとの要望が出された。お互いの課題について積極的な意見交換が行われ、課題を共有でき

た。

**【白川 正志】**

- ・原子力サイクルの確立に向けた現状を現場で感じ取る目的で視察した。「リサイクル燃料備蓄センター」の立地から建設に至るこれまでの経緯や背景を確認した。事業開始時期は「事業開始段階の保安規定の変更認可」の見通しが得られた段階で、具体的な目標時期を見極めるとあり、現時点での課題を着実にクリアしていても事業が開始できるとは限らない、今の認可制度そのものの意義を見直す必要性を感じる。

**【田邊 優香】**

- ・リサイクル燃料備蓄センターを視察しました。使用済み核燃料を最終処分するまでの間、金属キャスクという全長 5.4m 直径 2.5m の筒に入れ使用済み核燃料の放射線を遮断、施設内の自然対流による空冷で臨界に達することを防ぐことのできる施設であり、現在は規制庁への事業変更許可を申請中であることを確認しました。むつ市議会との意見交換会では「使用済核燃料中間貯蔵事業に関する経緯と現状」、「使用済核燃料税について」行われました。むつ市の方々の意気込みや覚悟を感じました。柏崎市も深く関わることから、今後もお互いに意見交換、情報共有をしつつ良い方向に向かうよう連携していきたいと感じました。

**【近藤 由香里】**

- ・リサイクル燃料貯蔵(株)では、「中間貯蔵施設は核燃料サイクルの重要な一過程である」との矜持を持って、意欲的に稼働の準備を進めている印象を受けた。また、むつ市議会の皆さんとの意見交換を通して、「地域を豊かにしたい」という明確な意思のもと、中間貯蔵施設を誘致したことへの責任と覚悟が感じられた。中間貯蔵施設の稼働は柏崎市の将来にとって大きな意味を持つ。今後は更にむつ市及びむつ市議会との交流を深め、相互理解・連携していくことが重要だと思う。